

労働党 当選議員の声

2007年連邦総選挙
11.24 オーストラリアが
選んだ道

西オーストラリア州のフリーマントル選挙区で議席を獲得した、メリッサ・パーク議員に当選時の感想や今回の選挙、今後の抱負などを伺いました。



メリッサ・パーク下院議員（左）とケビン・ラッド首相（右） Photo Courtesy of Melissa Parke Campaign Office

Melissa Parke フリーマントル選挙区代表
Member for Fremantle **メリッサ・パーク下院議員**

Q：今回の選挙で、連邦下院議員に決まった瞬間はどのようなお気持ちでしたか？

A：フリーマントル選挙区の連邦下院議会の代表者と決まったことに大変な名誉を感じ、とても嬉しかったです。私のこれまでのプロとしてのキャリアが公共サービスだったことから、今後連邦議会の下院という非常に限られた人間が就ける公共サービスに携われることに、大変な喜びを感じました。

Q：労働党の特徴を教えてください。

A：オーストラリアの政治の中で、労働党は改進黨に近く、大きな枠組みでは近代的社会民主党とも言えます。労働運動を背景に労働党は誕生しましたが、今もなお平等主義の精神により活動しています。思いやりのある社会というのは社会全体で前進ができること、共通の利益を生み出すには全ての国民が平等に機会と安全、そして責任を共有しなければいけない、ということを感じています。

Q：11月24日とはパーク議員ご自身にとって、そしてオーストラリアにとってどのような日と考えていますか？

A：オーストラリア国民が、過去24年間に2回しかなかった連邦政府の政権を変えた重要な日です。この日は、オーストラリアが今後直面する21世紀の諸問題、例えば気候変動や教育と技術、そして経済の多国間主義などに対し、国民が前向きな姿勢を明確に見せた瞬間だと私は考えています。

Q：労働党が政権奪取をした主な理由は何だと考えていますか？

A：オーストラリア国民が連邦レベルでの新しいリーダーシップが必要だと感じ、また労働党が国の発展と公平な社会を築くのに最良の政策を持ち、最高の候補者を擁立して選挙に臨んだからだと思います。

Q：労働党の政権下で、西オーストラリア州民の生活スタイルにはどのような変化があると考えられますか？

A：私を選出してくれたフリーマントル選挙区の有権者の皆様は、連邦政府が抱えていた、彼らの生活に影響を与えるような問題の解決を新しい政権に求めています。例を挙げると、過去長く置き去りにされてきたブロードバンド設備向上への取り組み、太陽光発電や排水再利用技術を活用したい国民への費用の支援、そして生きている動物を輸出することについての再検討などがあります。

Q：西オーストラリア州と日本は、貿易や文化交流などで深い関係を築いてきましたが、労働党はこの関係についてどのような姿勢を持っていますか？

A：日本との関係はオーストラリアにとって、特にアジア・太平洋地域で最も重要なものの1つです。労働党は、APEC（アジア・太平洋経済協力）の設立やその他の同じような国際的な政策を常に価値があるものと捉え、2国間または多国間での良い関係を構築をする必要性を強調してきました。労働党政権と日本政府は、建設的な話し合いとお互いが共有する目標への相互協力を通して、今後も素晴らしい関係を築いていくものと確信しています。

Q：フリーマントル選挙区の連邦下院議員として、今後どのようなことに着手していきたいですか？

A：私を支持してくれた選挙区の皆様のために、創造性を持ちながら全力で取り組んでいくつもりです。都市開発に関するプロジェクトに取り組んでいる個人やコミュニティ団体を支援し、現在急速に発達しているフリーマントル選挙区の南東方面に、インフラ設備などへの適当な資金を提供していきたいと思っています。

取材協力：Melissa Parke Campaign Office